科目名	国際関係論　　International Relations						
科目担当者	千知岩 正継　　CHIJIIWA Masatsugu						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	国内外で日々発生する複雑な政治的出来事を読み解くには、膨大な関連情報を集めるだけでは不十分です。重要な情報を取捨選択し、出来事と出来事との関連性を見出し、体系化する枠組みや観点、すなわち理論が必要になります。そこでこの授業では、複雑さを増す現代のグローバル社会を説明・解釈するために必要不可欠な国際関係理論（国際関係に関する思考の伝統やイメージ、観点、枠組み）を学びます。						
授業の到達目標	①個々の国際関係理論の特徴を理解し、説明できるようになる。 ②国際関係論の基本概念（アナーキー、パワー、ヘゲモニー、世界システム、国際レジーム、国際社会など）を理解し、説明できるようになる。 ③国際関係理論を駆使して、現代のグローバル社会で生じる様々な現象を多面的に説明・解釈・分析できるようになる。						

授業計画・内容		
	1	国際関係理論（IRT）とは何か―ユーザーズ・マニュアル―
	2	IRT の基礎中の基礎―アクター、アナーキー、分析レベル―
	3	国際関係論の誕生―ユートピアン・リベラリズムと「危機の 20 年」―
	4	古典的リアリズム―悲劇の国際政治―
	5	リベラリズム―社会的・経済的な交流を通じた国際関係の進歩―
	6	国際的相互依存論―商業リベラリズム―
	7	マルクス主義―世界経済システムにおける「中心」と「周辺」―
	8	デモクラティック・ピース論―共和制リベラリズム―
	9	ネオリアリズム―戦争状態としてのアナーキー―
	10	ネオリベラル制度論―アナーキーの下での協調―
	11	英国学派―アナーキカル・ソサイエティ―
	12	コンストラクティヴィズム―国際関係の社会的構築―
	13	近年のリアリズムの展開とその論点
	14	国際関係理論からみた米中対立
	15	国際関係理論からみたロシア・ウクライナ戦争

授業外学修 (事前学修)	Moodle で事前に配布する課題文献とプリントを熟読、国内外の政治関連のニュースをチェック（毎週 2 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	配布プリントの設問を解く、ノートの点検、課題文献の再読（毎週 2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験	50%	①、②、③
	ミニ・レポート	20%	①、②、③
	リフレクション・カード	20%	②、③
	授業中の質疑やクイズへの積極的参加	10%	③

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	なし
参考文献	岡垣知子『国際政治の基礎理論』（青山社、2021）。
その他	Moodle 上からのアナウンスで連絡をするのでメールの確認をしっかりすること。